

「桃太郎」never_ending_story」

作 中堂大嘉

【あらすじ】

あるところに、ゲーム中毒のおじいさんとパチンコ中毒のおばあさんがいた。彼らは毎日喧嘩ばかりを繰り返して、日常の幸せを忘れていた。

いつものようにパチンコを打つおばあさん。すると、パチンコの玉と一緒に桃が流れてくる。おばあさんは、この桃は金になると思い、農協に持っていく。道中、おばあさんは桃を落としてしまい、中からももたらうが現れる。

おばあさんとおじいさんは、仕方なくももたらうと暮らすことにした。ももたらうは、一体彼らに何をもたらすのか？

【登場人物】

ももたらう

おじいさん

おばあさん

ナレーター

1.

ナレーター「あるところにおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんとおばあさんは大変仲が悪く、いつも喧嘩ばかりしていました」

おじいさん「うるせえくそばば！」

おばあさん「うるせえくそじじ！」

おじいさん、おばあさん、チョップし合う。

ナレーター「喧嘩をしたあとは、おじいさんはお家でゲームを」

おじいさん「いけ！ ピカチュウ！」

ナレーター「おばあさんは、外でパチンコをするのがいつものパターンでした」

おばあさん「なんでこないんだよ！ こっちはもう三万も突っ込んでんだよ！」

パチンコ台を叩くおばあさん。

ナレーター「するとなんとということでしょう。パチンコの玉と一緒に桃が流れてくるではありませんか」

おばあさん「も、桃？」

ナレーター「桃は大きく膨れ上がり、パチンコ台から飛び出してきました」

桃を抱えるおばあさん。

おばあさん「桃だ」

ナレーター「なぜ桃がパチンコ玉と一緒に流れてきたかは分かりませんが、おばあさんはこの桃は金になると思い、農協に持っていくことにしました」

おばあさん「よいしょ……よいしょ」

ナレーター「しかし、身体がついていきません」

おばあさん「よいしょ……よいしょ、ああ！」

ナレーター「おばあさんは桃を放してしまいました。桃は勢いよく転がっていきました」

おばあさん「待っておくれ」

ナレーター「すると、桃はドリフトをしながら、障害物を躲し、どんどんどんどん大きくなっていきました」

おばあさん「な、なんじゃこりゃ」

ナレーター「華麗なドリフトでお婆さんの前に戻ってくる桃」

おばあさん「おおー」

おばあさん、拍手する。

ナレーター「すると桃を突き破り、中から子供が出てきました」

ももたろう「パッカーン」

おばあさん「ば、ぼっかーん」

ナレーター「パッカーン」

おばあさん「こ、こども」

ナレーター「おばあさんは大変驚きましたが、すぐに冷静になりました」

おばあさん「桃のままでもよかったのになあ」

割れた桃を撫でるおばあさん。

おばあさんの手を掴むももたろう。

ナレーター「おばあさんは、子供を育てるのはお金がかかるし、面倒だと思いました」

おばあさん「パチンコでなくなっちゃまうよ」

ももたろうの手を離し、家に向かうおばあさん。

ももたろう、おばあさんのあとを追い、再び手を掴む。

おばあさん「……他にもっといい人がいるから、ごめんね」

ももたろうの手を振り払おうとするおばあさん。

離さないももたろう。

おばあさん「……しょうがないねえ」

ナレーター「おばあさんは、その子供を家に連れていくことにしました」

自宅へ向かうおばあさんとももたろう。

2.

ゲームをやっているおじいさん。

おじいさん「ピカチュウ！ 十万ボルト！」

おばあさん「ただいまー」

おじいさん「遅いぞ！ 早く飯の支度をしろ。くそばくそ」

おばあさん「言われなくてもそうするわ、くそじくそくそ」

おじいさん「なんだって！ もういっぺん言ってみろ！」

おばあさん「くそじくそくそ、くそくそ」

おじいさん「噛んでんじゃねえよ！」

おばあさん「くそじく！」

チョップし合う2人。

ももたろう「やめて！」

おじいさん「おばあさん「……」

おじいさん「なんじゃこの子は？」

おばあさん「……パチンコの景品だよ」

おじいさん「まーたパチンコいつてたのか！」

おばあさん「あんただって！ ずーっとゲームばっかやってたんだろ！」

おじいさん「うるせえ！」

おばあさん「うるさいのはあんただよ！」

チョップし合う2人。

ももたろう、泣く。

おじいさん「おーよしよしごめんなー。おまえさん、名前はなんと言うんじゃ？」

ももたろう「……名前がありません」
おじいさん「……そうか」
おばあさん「……ももたろう」
おじいさん「ほ？」
おばあさん「この子、桃から出てきたんだよ、だからももたろう」
おじいさん「……ついにボケよったか」
ももたろう「本当なんです、僕、桃から出てきたんです」
おじいさん「ど、どうやって？」
ももたろう「こう、パッカンって」
おじいさん「パッカン？」
おばあさん「パッカンって」
おじいさん「パッカン……」
ももたろうのお腹が鳴る。
おばあさん「ももたろう、お腹が減ったかい、いまご飯作るからね」
おじいさん「……パッカン」
ナレーター「こうして、ももたろうはおじいさんとおばあさんと暮らすことになりました」

3.

ももたろう、外で無邪気に遊んでいる。
おじいさん、おばあさん、ももたろうを見守る。
ナレーター「おじいさんとおばあさんは、ももたろうと平穩に過ごしていました」
おばあさん、手首を回し、パチンコに行きたそうな様子。
おばあさん「おじいさんや、少し話が」
おじいさん「なんじゃ、パチンコ代ならぬぞ」
おばあさん「そ、そんなんじやないよ」
おばあさん、チラシを取り出す。
おじいさん「なんだいこれは？ 鬼を退治してくれる勇者求む……倒した者には、賞金一千万……一千万！？」
おばあさん「声大きいわい！」
おじいさん「M1グランプリの優勝賞金と一緒にないか」
おばあさん「そうじゃそうじゃ、一千万じゃ」
おじいさん「ワシが……鬼退治？」
おばあさん「そうそう、鬼がじじいだと思って油断したところをこうパッカンって。バカタレ！ じいさんじゃないわい、ももたろうじゃ！」
おじいさん「ももたろうを？」
おばあさん「……私達の年金も底が見えとる、ももたろうと生活するのも難しくなってくる

……ももたろうが鬼を倒せば賞金一千万、鬼に倒されてもももたろうはいなくなる」

おじいさん「ばあさん、あんたなんてこと！」

おばあさん「しょうがない！ 私達が生きるためにはこれしかないんだよ！ ももたろうには悪いけど、鬼退治に行ってもらおう」

おじいさん「……」

遊んでいるももたろう。

おばあさん「ももたろうや、もう帰る時間だよ」

ももたろう「はい！」

手を繋ぎ、家へ向かう3人。

おばあさん「ももたろう」

ももたろう「ん？」

おばあさん「……あの、ね」

ももたろう「……鬼退治？」

おばあさん「え？」

おじいさん「おまえさん、なんでそれを」

ももたろう「さっきちょっと聞こえちゃったんだ……僕いくよ、鬼退治」

おばあさん「……ももたろう」

ももたろう「そうすればおじいちゃんもおばあちゃんも生きていけるんでしょ、僕一生懸命鬼をやっつけるよ！ そしたらお金がたくさんになって、みんなで暮らせるんでしょ！」

おじいさん「ごめん……ごめん、ももたろう」

ももたろう「おじいちゃん、なんで謝るの？ ぼくやっつけるから、ちゃんと鬼をやっつけるから」

ナレーター「こうして、ももたろうは鬼退治に行くことになりました」

4.

おばあさん「ももたろう、忘れ物はないかい？」

ももたろう「だいじょうぶ！」

おばあさん「本当に？ あ、お団子もって持った方がいいんじゃないかい？」

ももたろう「だいじょうぶだよ、おばあちゃん」

おじいちゃん「ももたろう、気をつけてな」

ももたろう「うん……じゃあ行ってくるね！」

歩き始めるももたろう。

ももたろう、脚が止まって震える。

ももたろう「あれ、なんだこれ……くそ、止まれ止まれ！」

おばあちゃん「ももたろう……」

ももたろう「鬼をやっつけるんだ、みんなで暮らすんだ……くそくそ！」

かけよるおばあちゃん。

おばあちゃん「ももたろう!」

ももたろう「おばあちゃん?」

おばあちゃん「ごめんねももたろう、無理させたね……ごめんね……ごめんね」

ももたろう「大丈夫だよ、お、鬼を、鬼をやっつけるんだ」

かけよるおじいちゃん。

おじいちゃん「ももたろう! ……ごめんな、ごめんな」

ももたろう「鬼を……鬼を……」

おばあちゃん「もういいから! 鬼なんか倒さなくてもいいから! ずっと側にいておく

れももたろう。お金のことはなんとかするから! パチンコも、もうしない」

おじいちゃん「ばあさん……ワシもゲームを辞めて働こう。それが一番じゃ……ももたろう

ずっと側にいておくれ」

ももたろう「おじいちゃん、おばあちゃん……うわーん」

おばあちゃん「よしよし。恐かったね、ももたろう」

おじいちゃん「わしらがずっと側にいるからな」

ももたろう「うわーん」

どこからともなくM1のチラシが飛んでくる。

チラシを拾うおじいさん。

おじいちゃん「……よおし」

5.

ナレーター「おじいさんは、おばあさんとももたろうとトリオを組んで、M1グランプリに
出場することにしました」

M1に出る3人。

おじいさん・おばあちゃん・ももたろう「どーもー! ゆりかごから墓場までです!」

おじいさん・おばあさん「お願いしまーす」

ももたろう「さーがんばっていきましようか」

おばあさん「ねー」

おじいさん「あのね、えーっと、なんだっけ」

ももたろう「え?」

おばあさん「じいさん」

おじいさん「えーっと」

ももたろう「じいちゃん?」

おばあさん「ちよっと、あんた」

おじいさん「え、だれだお前」

おばあさん「え?」

おじいさん「どこだここは」
ももたろう「じいちゃん？」
じいちゃん「なんだ、この子は」
おばあさん「あんた」
じいちゃん「ばあさんはどこだ」
おばあちゃん「ここだよ」
じいちゃん「誰だお前」
ももたろう「……じいちゃん」
おばあちゃん「あんた、もしかして」
ももたろう「漫才中に、ぼ、ぼ」
じいちゃん「そうー！ これがホンマのボケでっせー！」
おじいさん・おばあちゃん「笑って逝こう、墓場まで」
ももたろう「逝くは、死ぬ方の逝くですー」

爆笑の渦。

ナレーター「おじいさん達は、ダークホースとして、なんと決勝まで進みました。そして迎えた、結果発表の時」

おじいさん「ゆりかごから、墓場まで」
おばあさん「ゆりかごから、墓場まで」
ももたろう「ゆりかごから、墓場まで」
おじいさん「おお！」
おばあさん「おおー！」
ももたろう「おおーー！」
おじいさん・おばあさん・ももたろう「おおーーー！」
ナレーター「満場一致で、おじいさん達は優勝することができました」
喜び、抱き合う3人。

ナレーター「こうして、おじいさんとおばあさんは、ももたろうと幸せにくなりましたとき。おしまい」

おわり